

広島大学大学院教育学研究科

共同研究プロジェクト 報 告 書

(第16巻)

平成 30 年 3 月

広島大学大学院教育学研究科

巻 頭 言

本報告書は、部局長裁量経費による平成 29 年度共同研究プロジェクトの成果報告書であり、平成 14 年度の『リサーチ・オフィス共同研究プロジェクト報告書』第 1 巻が刊行されて以来、継続して刊行されてきた報告書の 16 巻目にあたる。

広島大学では平成 12 年度に教育学研究科・教育学部と学校教育研究科・学校教育学部が統合・再編され、新しい教育学研究科・教育学部が誕生した。これを機に、リサーチ・オフィスを立ち上げて、研究科として取り組むべき研究課題を指定し、共同研究として関連研究の推進・支援を図り、この研究活動を休むことなく推進してきた。この制度では、研究科に所属する教員が研究組織を組んで応募する場合と、オフィスが依頼する場合があり、必要度と重要性に応じて研究費が与えられることになっている。

新研究科・学部誕生の二年後には大学が法人化され、中期目標が設定された。共同研究プロジェクト制度はそれらを達成するための一つの策として有効に活用され、研究科・学部として研究の推進に大きく貢献し、成果をあげてきた。また、教育をめぐる様々な状況が変化するに即応して研究課題を指定し対応してきたことも、本制度の重要な意義である。当初より、異なる講座に所属する教員が共同研究を行うことによって、多様な分野・領域の知見を総合した研究に取り組みながら、組織構成員のつながりをいっそう強固なものとしているところにも本制度の大きな効果が見られる。

このように大きな成果をあげてきた共同研究プロジェクト制度だが、平成 29 年度もまた、従来に比して教育学研究科の全体予算が減少し、本制度にあてられる予算も従来通りとは行かなくなった。そのような厳しい状況のなかで、本制度の変わらぬ意義をお認めいただき、限られた予算のなかで部局長裁量経費として本プロジェクト関連予算を確保していただいた、研究科長はじめ各位に改めて感謝申し上げる。

本年度は次の通り実施された。

1. 研究課題の公募と研究カテゴリー

例年よりも少し遅くはなったが、年度初めに共同研究プロジェクトとして進められる研究課題が公募され、特に「平成 29 年度 教育学部・教育学研究科 中期目標・中期計画」 「2 研究に関する目標」に基づいて、次の研究を優先することが明示された。

- (1) 異分野の融合による独創的な研究
- (2) 教科、学校種を超えた教育の創出につながる研究
- (3) 教育学研究科の新しい取り組みとして内外に提案できる研究
- (4) その他、教育学研究科にふさわしい研究

2. 採択された研究課題

上記の公募に応募した、次の 13 件の研究課題が採択された。

課題番号	研究代表者	研 究 課 題 名	カテゴリー
1	服巻 豊	身体動作コントロールを通したヘルスプロモーションに関する基礎と臨床を融合した効果研究 ―身体動作を基盤としたストレスマネジメント教育プログラムにおける検証―	(1)
2	権藤 敦子	広島県にローカライズした小学校教員の養成・採用・研修の一体化に向けた研究 ―地域拠点としての広島県小学校教員養成コンソーシアムの設立に向けて―	(2)
3	渡辺 健次	学校種・分野を超えた ICT 活用教育の実践と効果検証(2)	(2)

4	岩田 昌太郎	グローバル人材育成に資する教科連携型の Content and Language Integrated Learning(CLIL)に関する実証研究 ―中学校における技能教科のパイロット・スタディー―	(2)
5	Sponseller, Aaron C.	日本の小学生の保護者、教師(希望者、現職含む)に対する絵本の読み聞かせに関するビリーフ調査	(2)
6	若松 昭彦	特別支援学級担任者の継続的な養成・研修システムの開発に関する研究	(3)
7	竹下 俊治	ポートフォリオ評価を基軸とした、大学における教職課程の改革に関する研究	(3)
8	草原 和博	教育ヴィジョン研究センターの企画・運営戦略に関する研究(2)	(3)
9	柳瀬 陽介	異教科で協働できる教員を育成するための実践的研究(2) ―異教科が協働する授業づくりへの「広大モデル」提示を目指して―	(3)
10	上手 由香	原爆被爆の次世代への心理的影響に関する研究 ―第二世代、第三世代の平和への認識に着目して―	(3)
11	松見 法男	広島大学「グローバル教員養成プログラム」の現状と課題 ―国際バカロレア教員養成システムの導入に向けて―	(3)
12	深澤 清治	グローバル時代に求められる教員養成プログラムの教育的効果に関する研究 ―日米協働による「体験型海外教育実地研究」を通して―	(4)
13	栗原 慎二	子どもの心と学び支援を通じた知の交流が教員としての専門性の発展にもたらす効果の検討 ―他機関連携の視点から―	(4)

※研究課題名は採択時のものである

3. 研究の実施と報告

それぞれの研究課題についてはほぼ1年の間、各研究代表者を中心として精力的に続けられた研究の成果の概要をまとめたものが本報告書である。なお、平成26年度以降、冊子体での配付を取り止め、広島大学機関リポジトリに登録して広く公開し、自由にダウンロードしていただけるようにしているが、さらに利用者の便宜をはかるため、教育学研究科ホームページからもリポジトリに直接アクセスできるようにした。

比喩的に言えば、本報告書は、さまざまな状況や環境で根を張り、葉を広げ、花や実をもたらす教育研究の多彩な苗を収めたものであり、豊かな生産性の母胎である。いっそう複雑化し多様化する社会の要請に応え、多くの人々の幸福な人生に資するものとなることを期待したい。なお、本報告書の作成にあたっては、専門部会の先生方と支援室のみなさんに大変お世話になった。末筆ながら感謝申し上げる次第である。

平成30年3月

広島大学大学院教育学研究科
研究部会長

山 元 隆 春

目 次

1. 身体動作コントロールを通したヘルスプロモーションに関する
基礎と臨床を融合した効果研究
ー身体動作を基盤としたストレスマネジメント教育プログラムにおける検証ー
.....服巻 豊 (1)
2. 広島県にローカライズした小学校教員の養成・採用・研修の一体化に向けた研究
ー地域拠点としての広島県小学校教員養成コンソーシアムの設立に向けてー
.....権藤 敦子 (11)
3. 学校種・分野を超えた ICT 活用教育の実践と効果検証 (2)
.....渡辺 健次 (21)
4. グローバル人材育成に資する教科連携型の
Content and Language Integrated Learning (CLIL) の実証研究
ー中学校における技能教科のパイロット・スタディー
.....岩田昌太郎 (31)
5. Survey on Beliefs Regarding Reading Picture Books for Parents, Pre-service
Teachers, and In-service Teachers of Elementary School Students in Japan
ー日本の小学生の保護者、教師（希望者、現職含む）に対する
絵本の読み聞かせに関するビリーフ調査ー
.....Aaron C. Sponseller (41)
6. 特別支援学級担任者の継続的な養成・研修システムの開発に関する研究
.....若松 昭彦 (49)
7. ポートフォリオ評価を基軸とした、大学における教職課程の改革に関する研究
.....竹下 俊治 (59)
8. 教育ヴィジョン研究センターの企画・運営戦略に関する研究 (2)
.....草原 和博 (69)
9. 異教科で協働できる教員を育成するための実践的研究 (2)
ー異教科が協働する授業づくりへの「広大モデル」提示を目指してー
.....柳瀬 陽介 (77)
10. 原爆被害の次世代への心理的影響に関する研究
ー第二世代、第三世代の平和への認識に着目してー
.....上手 由香 (85)
11. 広島大学「グローバル教員養成プログラム」の現状と課題
ー国際バカロレア教員養成システムの導入に向けてー
.....松見 法男 (95)
12. グローバル時代に求められる教員養成プログラムの教育的効果に関する研究
ー日米協働による「体験型海外教育実地研究」を通してー
.....深澤 清治 (103)
13. 子どもの心と学び支援を通した知の交流が教員としての専門性の
発展にもたらす効果の検討 (2)栗原 慎二 (113)

発行者：広島大学大学院教育学研究科
(〒739-8524)

東広島市鏡山1丁目1-1

発行日：平成30年3月23日

印刷所：広島市西区商工センター7-5-33
株式会社 ニシキプリント

電話 (082) 277-6954